

令和6年度静岡県高校バスケットボール新人大会 大会展望

文： 中島 洋己

((一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭)

令和6年度第38回東海高校新人大会バスケットボール競技静岡県予選が令和7年1月25日に三島南高校他で開幕する。初日に1,2回戦、2日目にブロック決勝と決勝リーグ初戦および5位決定トーナメント、週をまたいで3日目に舞台を御殿場市体育館に移して決勝リーグ第2戦と順位決定戦、最終日に決勝リーグ最終戦を行い、上位3チームが2月15,16日に三重県・四日市市総合体育館で開催される東海高校新人大会への出場権を獲得する。今年の戦力図を占う最初の大会を制するのはどのチームなのか、また東海新人に県代表としてコートに立つのはどのチームなのか、今から興味が尽きない。

ここで今回の県新人大会に関するトピックを3点紹介したい。

1点目は今大会から「7位決定戦」も行うことである。平成29年度の県新人から5位決定トーナメントが導入され5位決定戦は行われているが、7位決定戦は行わず2チームを7位とし、次大会の第7・第8シードは抽選によるものとしてきた。県新人の7・8位は翌年の県総体シード順に大きく影響し、完全トーナメント制で行われる県総体では順当に勝ち上がると第1シードと対戦するのが第7シードの場合は決勝であるのに対し、第8シードは準々決勝で早々に当たってしまう。もちろんシード順は該当校ではなく地区に割り当てられ、さらに優勝するためには当然いつかは最強の相手と対戦してなければならないが、県総体も視野に入れながら緊迫した順位決定戦という貴重な経験を積めることは、プレーヤーズファーストの理念に基づいた運営側の「英断」であると評価したい。

2点目は県大会最終2日間は9年ぶりに東部地区で開催されることである。県新人はこの9年間、草薙このはなアリーナを中心に中部地区で開催されてきた。県総体はエコパ、ウインター県予選は静岡県武道館で開催してきたので、三大大会としては平成27年度県新人の沼津市民体育館以来の東部開催、舞台はU18県大会初使用の御殿場市体育館となる。東部の会場と言えば沼津市民体育館や富士宮市民体育館を思い出すが、御殿場市体育館はU12の県選手権やU15の県新人・県会長杯、そしてBリーグ・Wリーグの会場で頻繁に使用されており、皆様にも馴染みのある体育館、驚くことに高校の県大会では初使用となる。そして何よりも東部地区はU18の地区予選最終日を御殿場市体育館で開催することが多く、つい2週間前の東部新人最終日も使用され、東部地区の高校生にとっては「聖地」、まさに「ホームタウンゲーム」と言える。

3点目は直接県新人とは関係ないが、新年の挨拶や1月6日の県協会HP記事でも触れた「県協会公式アプリ(仮称・静岡県バスケ)」の試行をこの大会で行う点である。すでに皆様はHP経由でQRコードを読み取りアプリをインストールしていただいていると思うが、(株)ookami様の協力を得ながら県新人のニュースやスコアを情報発信していく。出来る限り早い情報配信に務め、県新人1,2日目はHP同様全試合終了後、最終2日間は各試合結果確定後瞬時にアプリで通知する予定である。会場主任や高体連広報委員の先生方には今まで以上にご苦労をおかけすると思うが、機能の確認、情報発信の手順、そして導入に向けてのメリット・デメリットの把握を行うためにも協力して頂くとともに多くの皆様にアプリ登録をしてもらい、使い勝手などのご意

見をもらいたいと思っている。なお現在このアプリ導入はあくまで検討中、正式運用の可否を決めるための試行運用を今大会で行い、県協会理事会で十分吟味し結果を年度内にお伝えする旨もご理解いただきたい。

この大会から年末の**ウインターカップ 2023**に出場して全国ベスト 16 となった浜松開誠館女子、そして全国 3 勝を飾ってベスト 8 になった藤枝明誠男子が満を持して登場する。全国の強豪と繰り広げた熱戦で培った経験をこの大会で思う存分に披露してくれることを期待したい。また、この時期毎年のことだが**季節性インフルエンザ**の流行がすさまじく、静岡県でも「警報レベル」を大きく超える感染者数を記録し続け、一部では学級閉鎖や地区予選の出場辞退もあったと聞く。空気に色が付いているわけでもなく対応にも限界はあるが、各自十分な感染症対策を講じて棄権チームを出すことなくこの大会が無事終了ことを願う。

2月2日には恒例の**(一社)静岡県バスケットボール協会 U18 優秀選手表彰式**が開催される。昨年4年ぶりに開催され、県新人大会最終日の風物詩が帰ってきたこともあり感無量で集合写真を撮ったことを思い出す。ウインター3試合で3P9本を決めた井口姫愛、同じく3試合で合計93得点を記録し世代屈指のエースとして日本代表への階段を昇り続ける後藤音羽、長いウイングスパンとストライドを使っての華麗なプレーで観客を魅了した河谷真矢という3年連続受賞者を筆頭に、ウインターで歴代2位の1試合34リバウンドを記録したロードプリンス、4試合で19アシストを決めた野田凌吾を含めた今年度の高校バスケを彩った24名のスーパースターが集う最後の機会、多大な貢献に心から拍手を送るとともに次なるステージでの活躍を祈りたい。

この展望を執筆するにあたって山口裕史県協会広報副委員長・三宅凌広報委員を始め、各チーム顧問にもお願いをして出来る限りの取材に応じていただいた。それでも十分な展望は書けていないが、この場を借りて協力していただいた皆様に心からお礼申し上げたい。そしてこの展望を読んで、少しでも多くの方が実際に会場に行って観戦したいと思ってくれればと思う。

【男子】

今大会はウインター県予選でも他チームの追従を許さず、本戦でも元日本代表・納谷幸二監督率いる岡山商大附、毎年純国産選手のみで独特なバスケスタイルを披露する新田(愛媛)、13年連続でウインターに出場しインハイ3位の経験もある正智深谷(埼玉)を倒し、3年連続東京体育館のメインコートで雄姿を見せてくれた藤枝明誠が頭1つも2つも抜けているが、昨年県新人・県総体でも準優勝し今回も東部新人連覇を飾った沼津中央、中部新人4連覇を成し遂げた静岡商業、西部新人決勝で浜松開誠館との壮絶な戦いを制した浜松学院の各地区覇者、そしてウインター県予選決勝で藤枝明誠相手に一步も引けをとらない素晴らしい戦いを見せてくれた浜松開誠館などが藤枝明誠の独走を許すまいと必死に追いかける展開が予想される。藤枝明誠は実戦経験を積んだ下級生が多いといえども全国有数の留学生・ロードプリンスが抜けたことや新チームを始動してまだ4週間程度という事実は変え難く、新たな布陣で試行錯誤を繰り返す中その合間を縫って実力派チームが包囲網となり藤枝明誠相手にどのような試合をするのかが楽しみである。

左上のブロックは大会3連覇中・ウインター全国ベスト8・県内高校大会8連覇そして57連覇中の藤枝明誠が大本命中の大本命であるが、その王者への挑戦権を賭けて地区3位の城南静岡

と三島北が争う展開になる。

藤枝明誠はウインター準々決勝で東山(京都)に惜敗したものの、大会ベストゲームの呼び声高い手に汗握る名勝負を演じた。最後の最後に勝利を逃してしまったが、日清食品トップリーグでは12点差で敗れた相手、そしてインハイ王者でもある東山を土俵際徳俵まで追い詰めた試合を見て勇気と感動をもらった人も多いはずだ。私も当日はバスケットLIVEでの動画観戦となったが感涙にむせんでしばらく何もできなかった記憶がある。敗れたことは非常に残念ではあるが、この試合はウインター史上に後々にも語り継がれるだろう珠玉の名勝負であることは間違いのない。また感傷的になりがちな試合後の「ラストミーティング」でも指揮官は選手の前で涙を見せることなく前向きな言葉をかけ続けて上級生をねぎらい、下級生をさらに鼓舞する姿を見て藤枝明誠の強さの秘訣が垣間見られたように感じた。ロードプリンス・野田という絶対的エースと司令塔が抜けて戦力的に苦しくないはずはないが、先輩からの薫陶を胸に、果しえなかった全国制覇という大きな目標に向けて今大会で新たなスタートを切る。

中心となるのは、入学早々からレギュラーを獲得し全国の強豪と戦い続ける中で類まれな潜在能力を発揮して新生・藤枝明誠を牽引する191cm野津洸創。この選手に関してはすでに語り尽くした感があるが、ウインターを見ているとスピードやテクニックだけでなく、チーム愛に徹した泥臭いプレーにも磨きがかかっていた。4試合で58得点、インサイドプレーもさることながら随所で放つディープスリーも効果的に決まる大車輪の活躍を見せた。東山戦終了後には、悔しさのあまりコート上で人目もはばからず号泣した姿は見ている側にも胸打つものがあった。攻・走・守すべてに超がつくくらい一流選手であるが、特にオフボール時の位置取りが卓越、味方パスの先を見越した動きで得点を導き出すチームの潤滑油としての働きに注目して欲しい。余談ではあるが、ウインター県優勝インタビュー時には留学生の通訳も即興でお願いし、堪能な英語を披露してくれた。英語科教員である私から見ても素晴らしい天賦の語学力を持つバイリンガル、「天は二物を与えず」ではなく「天は二物も三物も与えた」ということだろう。絶対的エースに指名されたラストシーズン、さらなる成長曲線を描きながら日本一を見据える。野津を支えるのはウインターでも大活躍した篠原・金子・渡邊のレギュラー陣。爆発的な跳躍力を誇る185cm篠原遼太のハイライトは東山戦残り21秒、ブレイクからショートコーナーにリードパスを出され3Pを決められたと思ったとたん飛び込んでショットをブロックしたシーンに尽きる。あれだけの距離を果敢にジャンプしてボールを弾き出せる跳躍力は超人レベル、ポーカーフェイスと裏腹なプレーとのギャップも興味深い。私見であるが、あのブロックがなかったら、3Pはリングに吸い込まれていただろう。留学生相手にも果敢に間合いを詰めてボールを奪う気迫あふれるプレーも魅力、ここぞという時にチームの救世主(メシア)となる。鳴り物入りの大型新人として脚光を浴びた渡邊聖は今年ゲームキャプテンという要職を任せ心身ともにスケールアップが期待される逸材である。コートにいるだけで何かやってくれるような期待感と高揚感を与えてくれる選手、内外問わず得点が決められるスコアラー、圧巻だったのは国スポ準決勝・福岡戦。「ダブルダブルを決める活躍」、と聞けば得点とリバウンドで2桁を、と考える人が多いはずだが、今回は得点とアシストでの達成、特に10アシストは神業の域である。リバウンド能力も高い選手だけに今大会で「トリプルダブル」達成も決して夢ではない。金子來樹が脚光を浴びたのは岡山商大附戦、控えから出場したこの試合で膠着した流れを変えるために投入した下級生主体のメンバーがオールコートプレスでチームにリズムをもたらし自身も13得点、翌日の新聞紙面には「セカンドユニット」という言葉が並ぶ程の活躍だった。新田戦でも日本人最多の18得点を挙げた。一度付いたら離れない執拗なディフェンスと崩れた体勢でも決め切れる3Pを持つ、頼れる「3&D(ディフェンスと3Pでチームに貢献する選手)」である。県協会優秀選手にも選ばれた高

松悠季はスピードと瞬発力を生かした守備とハードな守備が信条、圧倒的なスピードでコートを切り裂きハイテンポなバスケットを展開する。小森蒼斗はリバウンドからのボールプッシュが魅力、まだまだ1年生、粗削りな部分は多いが誰よりもアグレッシブな姿勢でチームを勢いづける。他にも、溢れんばかりの闘争心でどんな役割も地道にこなす仕事人、ポストプレーとリバウンドに定評がある柴田陽、昨年は不本意な日々が続いたが見事復調、思い切りの良さと抜群の身体能力を兼ね備えた生粋のスコアラー・檜垣奏太、1年生とは思えないフィジカルと状況判断力で着実に流れをつなぐ万能選手、国スポでも高い得点能力を見せた徳田翔太、速攻を先導するビッグマン・永田貴睦、期待の有望株・吉田稜などセカンドユニットとして躍動してきた面々が今季から主役へと成長し、どのように試合に絡んでくるかも注目したい。

そしてロードプリンスの後釜として期待されるのが 200cm アネーエマニュエルチネメソン。偉大な先達から日々の練習を通じてインサイドプレーの王道を伝授され、トップリーグでは代役を十分果たし経験値を重ねたことも大きい。今まではオンザコートワンの関係でプレータイムが限定されていたが、今年からファウルトラブルに気を付けながら 40 分フルタイムでの活躍が期待される。藤枝明誠を 4 回全国ベスト 4 に導いた大黒柱が抜けた穴をどのようにリストラクチャー(再構築)していくか、彼のリムプロテクター(ゴール下のディフェンスに特化した大型選手)としての活躍が鍵となる。最後に新キャプテンの戸田湧大にも触れたい。元来得点力のある司令塔で何でも器用にこなす天才肌、プレーにも現れる堅実さで人望も厚く、個性派揃いの常勝軍団を力強く統率する彼の姿勢にも目が離せない。ハードなディフェンスから繰り出す速攻を武器に、冬に味わった悔しさを生かしさらなる「心技体」の充実を図り、まずは全勝での大会 3 連覇、そして 2 年ぶりの東海制覇も狙う。

中部 3 位・城南静岡はご存じの通り、3 年前藤枝明誠が県内で最後に敗れた相手、県総体 6 位・ウインター県予選ベスト 8 と実績を積み続ける実力派、相手がたじろぐプレッシャーディフェンスと得意のアーリーオフェンスは今年も健在、三島北との挑戦権争いを制して是が非でも王者に挑みたい。主力の塩坂優斗・海野伍希などは抜けたが昨年来下級生唯一のレギュラーとして経験値を積んだ佐野翔礼を中心に、長距離砲の大石侑や美しいフォームから放たれる 3P やマルチに役割をこなせる望月吹などの戦力で 9 年ぶりの県新人 8 強を狙う。

三島北は昨年この大会で中部王者・静岡商業を破るアップセットを演じ県 7 位、今予選も 3 位決定戦で飛龍を後半鮮やかに逆転して快勝、藤枝明誠への挑戦権を狙う。キャリアを重ねて立派なエースに成長した川上遼賢を中心に、堤寛大・仲野光樹・白井比路・北幸治などスタメンでも控えてもコートに立つ選手が一律に高い能力を発揮する実戦経験と厚い選手層が特徴である。そして長年チームを率いるのは長谷川泰一監督。県内有数の指導者、そして人一倍の熱血漢、現役の県立高校教員では男女合わせてたった 4 名しかいない東海大会出場経験監督、しかもその回数は立野幹夫(現駿河総合女子監督・5 回)に次ぐ 3 回を誇る。県 4 強も 7 回を数える名將中の名將、その教えを選手たちはコート上で体現し、2 年連続の 8 強を目指す。

その他の注目選手として、尾形空・朝比奈優馬・片瀬仁・細井龍(静岡市立)、増田脩人・平山歩・中上智仁・奥田彬人・徳田紘己(静岡)、今部陽翔・河合真叶・江間真都・ポリスティコユリ・二橋悠生・河合咲陽(浜松工業)、山田雄星・和賀井翔哉・小長井琉生(城南静岡)、井田翔太・周梓俊・岡本有都・藤原陽輝・出石夏南太・水口陽翔(袋井商業)、稲葉蓮・瀧内由馬・杉澤慧人・石川湊・杉谷勇臥・高田颯馬(富士宮東)、亀野広翔・山本旺毅・伊藤利通(三島北)などを挙げたい。

左下のブロックは男女を通じ県立高校初の地区新人 4 連覇を果たした静岡商業を中心とした争いとなる。そこに東部新人準優勝・韮山と西部新人最高の 4 位で挑む浜松湖南の公立勢と県内屈指の強豪校・東部 4 位の飛龍が加わり打倒・静岡商業を目指す展開となる。

静岡商業は中部新人決勝で 3 年連続の対戦となった静岡学園に電光石火のドライブを重ねながら 1on1 の強さと水も漏らさないリバウンド支配で競り勝ち大会 4 連覇、県立高校としては私も記憶にない偉業を遂げた。今年度県総体 5 位の実力派、昨年地区大会を含めた公式戦はたった 4 敗、それだけ見ればこの実績自体何ら不思議はない。しかしながらこの戦力を 4 年の長きに渡って続けることは並大抵ではない。就任 10 年・**増田哲也**監督の指導力・スカウティング力、そして選手や見る側をもひき付けるカリスマ的な魅力には敬服せずにはいられない。今年度も早々に新チームを始動させ、市川昊という絶対的スターを欠く戦力でウインター県予選でも前年度全国出場の浜松学院に大善戦してベスト 16、県武道館進出は逃したがきちんと冬を見据えた調整でチームを万全に仕上げ、まずは目標の 4 連覇を果たした。外枠からのスタートとなる 4 回目の県新人、3 年前は組み合わせ決定後に県新人が中止、一昨年・昨年はともに 2 回戦で不覚を取りベスト 16 止まり、未だブロック決勝にすら辿り着けていない。今回は万難を排して臨み、決勝リーグ進出が最低ノルマとなる。本来ならこの後エースの紹介に移るのだが、今年の静岡商業は全員が「エース」、ここが例年との決定的な違いである。

司令塔の**北堀遙大**は稀代の点取り屋、風を斬るように相手ディフェンスをなぎ倒す素早いオフenseスタイルと絶妙なタイミングで決める 3P は圧巻である。静岡学園戦 23 得点のキャプテン・**仲山柊志**は巧みなジャブステップやロッカーモーションを見せて相手を抜き去り柔らかなタッチで大きな放物線を描くシュートを放ち勝利への架け橋を創る。チーム最高身長 182cm **齊藤遙人**はインサイドポジションの固定概念にとらわれず、どこにでも駆け込んで仲間の合わせを呼び寄せてリングに叩き込む。決勝戦でも 35 点の荒稼ぎ、内外から入りだしたらとまらない勢いがあるプレーヤーである。**文谷虎斗**こそ目の肥えたバスケットファンが好む垂涎のプレーを見せるいぶし銀プレーヤー、アシスト・スティール・ブロックショットを何事なかったかのように平然と繰り返すその秘訣がコート上でのアイコンタクトにあることを私は見逃していない、まさに名人芸の域に達している。そして 4 連覇の立役者は何と言っても**佐野煌介**の成長と活躍なくしては語れない。典型的なオールラウンダーであることは知っていたが、柔らかい膝の伸縮を使ってポンプフェイクを入れての 3P やワンマン速攻、先を見越したディフェンスはもちろん、ノーチャージングエリア付近でも止まらず強引に突っ込むと見せかけて、ディフェンスとの駆け引きを一瞬で判断して仲間への合わせやアウトレットに切り替えるペイントエリアでのオフenseセレクションは超一流、満員の御殿場市体育館で見てもらいたいプレーヤーの 1 人である。このスタメン勢を見るだけでも県代表として東海に送り出しても立派に責任を果たせるレベル、あとは**富井遼真**を始めとする控えのメンバーが少しずつ底上げされれば、公立高校としては平成 24 年度の浜松西以来、12 年ぶりの東海新人出場も十分現実味を帯びてくる。そのためにはブロック決勝で予想される韮山との公立対決に勝って強豪が集う決勝リーグを勝ち抜きたい。

その静岡商業と県 4 強・決勝リーグを賭けての対戦が予想されるのは**韮山**。一昨年県新人 1 回戦で中部新人準優勝の静岡学園を破る大金星を挙げるなど近年の活躍が目覚ましい公立の雄、ウインター県予選でもベスト 16、今回の東部新人も第 1 シード・飛龍を破り初の決勝進出、惜しくも沼津中央には敗れたものの三島北とともに東部を代表する公立強豪校となった。就任 6 年目との**齋藤潤**監督は前任の伊豆中央時代から丁寧なチームの土台作りやきちんとした選手育

成、そして個々の長所を見極めてそれを着実に伸ばす指導には定評がある指導者である。この秋までチームの中心を担った萩原諒は引退したが、昨年来キャリアを積んで来た下級生が最上級生となりさらに努力を重ね開花、初の県8強そして一気に4強・東海へと目標を掲げて邁進する。今年のチームは粘りのディフェンスからの速攻が主体、相手に先手を取らせずイニシアチブを取りに行く攻撃的なバスケットスタイルと聞く。スタメンを1年生4人が占めることもあり、まだまだ伸びしろあふれるチーム、個々の能力も平均して高く全員が注目選手だが、その中でも東部決勝で3P3本を決めた**新藤穂月**は総体予選でも見せた得点力やゲームコントロール力に秀でる。その他にも、強いフィジカルとリバウンドで攻守の要となる**井上峻輔**、チーム内でのスタメン争いでレベルを高め合い3Pも放つ**川村蓮**と**土屋凜空**、昨年からのスタメンで出場を続ける唯一の2年生・**岡本心真**、そしてチームのシックスマンとして指揮官がここぞという場面で起用され「いざ鎌倉」とコートに馳せ参じる**深澤昂士郎**の面々で、まずはすべての県大会を通じて20年ぶりとなる県8強を目指し、初の県4強も射程圏内にとらえる。

浜松湖南は準々決勝でウインター県予選8強の浜松商業に競り勝ち創部以来最高となる西部4位、今大会のダークホース的存在である。全体的にスキルもよく磨かれており、強いディフェンスと対峙しても簡単にボールを奪われない強さが攻撃の特徴、粘り強いディフェンスとリバウンドからのファストブレイクも冴え渡り、その中心となるのは**池田蓮**。ミニバス時代からキャリアを積み上げリバウンドの強さが持ち味、スピードとフィジカルを生かしたペイントエリアのアタックも冴える。その他にも内外から得点を量産し1on1にも絶対的な強さを持つ**佐藤柊**、広い視野からの巧みなアシストを連発する**犬塚就斗**、ハードなディフェンスで献身的なプレーを繰り返す**岩田伸之介**など縦横無尽に駆け抜けるオールコートバスケットでベスト8を狙う。

このブロックに東部4位・**飛龍**がいるのは各チームにとって不気味な存在に映るはずである。男子最多11回の優勝を誇る静岡県が全国に誇る強豪、昨年も3位で東海新人出場、現在まで8大会連続東海新人出場中、今年度の県総体・ウインター県予選ともに4強、主力がごっそり入れ替わり厳しい戦力ではあるが、まさに「新生・飛龍」の新たなる初陣の大会と前向きに解釈したい。キャプテン・**小針琉碧**を筆頭に、ウインター県予選でも準決勝でベンチ入りした**佐藤輝**、東部新人・3位決定戦で3P3本を含む21得点の大暴れをしたシューター**鈴木悠**、強気なプレーを見せる**内田瑛悟**などフレッシュな面々で新たなるスタートを切る。

今大会男女通じて唯一の初出場校となる**田方農業**もこのブロック。県内にたった3校しかない農業高校、そして創立123年の伝統校、9位決勝Tで2勝し東部10位で初出場を決めた。私がウインター県予選で同じ会場となり観戦した印象では、総合力は平均以上、将来性も感じさせる内容ではあったが、試合やクォーターごとに生じる好不調のムラが気になるころではあった。しかしながら1ヶ月に渡る長丁場の地区予選で県大会を勝ち取ったのは心身における真の総合力が底上げされた何よりの証拠である。180cmオーバーの選手を4人抱える大型チーム、ボールプレッシャーを強く、シェルディフェンスを徹底して全員で守り抜くスタイル、オフenseではオフボールの動きをチーム課題として、スペースにアタックすることを心掛けていると聞く。ハンドリングとドライブを得意とし、センターやシューターへの合わせも上達しチームに不可欠な存在となった**藤本健生**を筆頭に、フルゲームを通じてハードにディフェンスする無尽蔵な体力を持ちキャプテンとして常にチームを鼓舞する声掛けを心掛け、ディフェンスへの意識を徹底させる**植松輝**、長身と身体能力を武器にリバウンドを量産し勝利を重ねるにつれて責任感も生まれ、課題のシュート力も向上している**遠田俊樹**、シューターとしての自信が生まれ周りからの信頼も

厚くチームの得点源となる**阪本壮亮**、そしてチーム最高身長 183cm のフィジカルを生かしたプレーが魅力・1年生期待の星・**松本実央**などのメンバーで中部王者・静岡商業に立ち向かう。

その他の注目選手として、**佐野匠・内山天夢・細井陸翔・島尾颯・佐藤愛琉**(浜北西), **辻野陽向・山内崇史・山崎巧太郎・岩井貫太・原田峻**(浜松聖星), **清水獅王・中村心汰郎・寺本柁**(飛龍), **戸田旭飛**(浜松湖南), **平野琥太郎・近藤丈太郎・松本翔和・鈴木優・平山蒼空・荻田翔葵**(東海大静岡翔洋)、**仁科祐真**(田方農業)などを挙げたい。

右上のブロックは東海リーグとウインター県予選準決勝で対戦、1勝1敗の戦績を残す沼津中央と浜松開誠館の両雄が前回大会同様ブロック決勝で決着戦を行う展開が予想される。

沼津中央は昨年県新人・県総体準優勝、ウインター県予選では浜松開誠館のすさまじい執念に屈し3位に終わったが、東部新人は決勝で韮山を破り危なげなく連覇、打倒・藤枝明誠の最右翼であることは間違いない。桐生武蔵・小林吏駒・内藤海夏人の新潟トリオは抜けたが、指揮官が我慢強く起用し続けその期待に応えた選手も多く、藤枝明誠に次ぐ厚い選手層となっている。

今回私が一番注目して欲しいのは191cm **高木強臣**。この選手名を言ってピンと来る人はまだそれほど多くはないかもしれないが、昨秋に発売された「D-sports SHIZUOKA」誌の表紙でロードプリンスと超ハイレベルの空中戦を繰り広げた選手といえば知らないバスケットファンはいないだろう。私もあの写真を見て正直「誰だ、この選手は??」と驚愕した覚えがある。2人の身長差は約20cm、それでも超人レベルの跳躍力で指先2関節差まで迫り、「五角の勝負」だったと言える。今まで3年間ロードプリンスの試合を見てきたが日本人選手で高さにおいて五角の勝負が出来たのは彼しかいない。撮影したフォトグラファーですら会心の一枚で、驚きのあまり無我夢中でシャッターを切ったと言う。沼津中央には数少ない県内出身(島田市金谷)選手、ミニバス経験はなく中学校からバスケットを始めた将来性豊かな逸材、時折ダンクシュートも決めると聞く。この大会を通じてさらにスキルを伸ばし静岡県の至宝になってもらいたい。高さで言えば二人の留学生を忘れてはならない。**ハビブアテイザカリファ**は今大会最高身長206cm、ゴール下以外のプレーにも成長の跡が見え、スピードやテクニックも上達してきた感がある。ウインター県予選準決勝14得点、東部新人決勝19得点と留学生にありがちな爆発的な得点力を見せるわけではないが数字に表れない貢献度は抜群、スタミナも鍛練した今大会ではプレイングタイムも伸び、さらなる比較が期待される。**エルデネサイハンエルデネバト**はフットワークの軽さとスピーディな動きが魅力、「見なし日本人扱い」のアドバンテージを生かし、東部新人ではカリファとのオンザコートツアの時間帯も増え、中盤を任せられることによりさらに持ち味を発揮するようになり今大会での活躍が楽しみである。東部新人で新星の如く現れそのバールを脱いだ**中島清之介**は県武道館決戦・浜松商業戦で途中出場したものの強い印象は残せなかったが、新チーム移行時にレギュラーを奪取し韮山戦では18得点を決めて連覇に大きく貢献した。その他にも、多国籍かつ個性派集団をまとめるキャプテン・韮山戦でも23得点を挙げた**本間高武**、1on1の強さに自信を持ち決勝でも堂々のスタメン出場を果たした**渡辺碧波**、空中戦を得意とする**諏訪部碧生・村上幸斗**、ゲームコントロールに秀でる**植田陽翔**など、常にオールアウトを目指しながら激しい攻守のトランジションを繰り広げ、人とボールが動く機能的バスケットを展開してまずは2年連続の東海新人を目指し、その先には藤枝明誠を倒して一気に13年ぶりの優勝に一気呵成に突き進む。

浜松開誠館は昨年ブロック決勝で沼津中央に敗れ5位に終わったものの、県総体3位で東海総体・日清食品東海ブロックリーグにも出場、強豪との試合を重ねて総合力も上がり、ウインタ

一県予選準決勝では宿敵・沼津中央を中盤の鮮やかな逆転劇で破り準優勝、一つ一つ順位を上げ続け、今回目指す目標は優勝しかない。西部新人では決勝で長年のライバル・浜松学院に惜敗したが、どんな位置からでも這い上がり最後にきちんと結果を残すのが浜松開誠館の真の強さ、今回もまずはブロック決勝での対戦が予想される沼津中央戦に競り勝ち、2年ぶりの東海新人そして初の県頂点を目指す。

中心となるのは2年連続で県協会優秀選手にも選ばれた**高森カイル**。柔軟性豊かなフィジカルを駆使したプレーの一挙手一投足が魅力の塊、瞬発力・ボールハンドリング・ペリメターでのジャンプショットなど挙げれば紙面がいくらあっても足りない。20得点を重ねた沼津中央戦は彼の特色が遺憾なく発揮された象徴的な試合であった。今年はチームを担う役割も増えてますますプレーヤーとしての資質が上がるだろう。鈴木楓大・工藤寧朗と代々チームのビッグマンが担ってきた背番号6を受け継いだ**後藤大駕**はこれからの日本を背負って立つ可能性を秘めた逸材中の逸材、U18日本代表経験もある日本人最高身長196cmは恵まれた体格を生かした高さは相手にとって脅威、さらに相手攻撃の芽を早めに摘むディフェンスにも注目して欲しい選手、今大会最注目選手の一人である。そして1年生司令塔・**木村晁大**、この選手を県武道館やテレビ・動画で初めて見て驚いた人も多かったとはずである。みんなが抱いた感想は「とんでもない選手が出てきた。」で一致すると思う。何でも器用にこなすオールラウンダー、ドライブもまずは果敢に突っ込む突貫選手、その中にも状況に応じて相手の動きを読み透かし巧みなキラーパスを放ちディフェンスを幻惑させる。ウインター県予選決勝でもチーム最多の15得点、藤枝明誠相手にひるむことなく立ち向かう姿は新たなスターの誕生を予感させた。後藤とともに1年生ながら県協会優秀選手、国スポ準決勝でも優勝した福岡県相手に3P2本を含む20得点を挙げる大活躍をしてチームだけでなく静岡県にも貢献度が大きいことも特記したい。私事で恐縮だが、ウインター県予選決勝に顧問として駿河総合高校報道部員を撮影のために引率した際、終了後の反省会で1番印象に残った選手を尋ねたところ、部員が異口同音に木村の名前を挙げたことに玄人も素人も唸らせる彼のプレーの魅力が凝縮されている。その他にも、西部決勝でスタメン出場しチームの先制点を3Pで決めた**吉田滯央**、一瞬の隙をつくドライブを見せる**加藤心**、スピードを駆使したランニングプレーが得意・**宇都宮大騎**、トリッキーなパスやドリブルが魅力・**宮城琉希**、3Pシューター・**岸川藍佑**、県武道館のメインコートで2試合とも身体を張った堅守を見せた**石田唯翔**などの戦力で、アウトワイドプレイヤーの力強いドライブや高さを生かしたポストプレーなどによってペイントエリアにボールを持ち込むオフェンシブなバスケット、チームの勢いを加速させて持ち前の素早いトランジションからブレイクに持ち込み、人もボールを常に動くバスケットを今大会でも見せて欲しい。

浜松北は西部10位で8年ぶりの県新人出場を決めた。山口広報副委員長が主力だった平成11年の県新人と県総体で連続4位になった実績もある古豪、昨年4月にOBの**池田卓也**が監督に就任し基本に忠実なバスケの指導を徹底、西部総体で逃した県大会出場を果たした。確実なスクリーンアウトからのリバウンドで相手の攻撃チャンスを減らし、自らの攻撃チャンスを増やす展開が勝利への方程式、上背が無くても強いフィジカルでインサイドにおいても当たり負けせずシュートに持ち込む。**佐藤悠**の1on1や**花村颯真**のポストプレーなどの個人技にも注目したい。

その他注目選手として、**高杉理己**・**南茂昌悟**・**山本勘太郎**・**日吉駿介**・**後藤大佑**(日大三島)、**浅利奏磨**・**鈴木琉希**・**土屋悠**・**土屋愛翔**・**仲澤猛**(加藤学園)、**安藤悠翔**・**太田一平**・**西ヶ谷優心**・**曾根田澄真**・**溝口穰治**(静岡東)、**増田好汰**・**近藤翔太**・**河村颯大**・**池谷月楓**・**後藤彩杜**・**杉本和輝**(島田工業)、**江原周侑**・**川端康太**・**大橋昭太**・**杉本光優**・**石上創士朗**・**高濱瑛笑**(静岡

城北)、竹田俊太郎・鈴木淳・尾嶋奏亮・山本大馳(浜松北)などを挙げたい。

右下のブロックは県新人優勝経験を持つチームが4校揃い、公立・私立の強豪が集うまさしく「死のブロック」となった。その中でも浜松開誠館を倒し西部王者として8年ぶりの東海新人出場を目指す浜松学院が頭一つ抜け出し、それを静岡学園・浜松西・浜松商業が猛追する展開が予想され、好カードが目白押しの熾烈な主導権争いが繰り広げられるだろう。

浜松学院は昨年度ウインター本選に出場したため新チームの始動が遅れ、県新人4位で東海を逃した。続く県総体は2回戦で城南静岡に敗れ、背水の陣で臨んだウインター県予選では静岡商業に快勝したものの準々決勝で飛龍に惜敗しメインコートを逃した。以後新チームをみっちり鍛えた成果が結実し、9点差で宿敵・浜松開誠館を破り西部王者として今大会に臨む。伝統の堅守速攻のバスケットをベースとして、1on1で決して負けない運動量に裏打ちされた脚力を武器に、ガード陣も高い位置からタイトにかつハードにディフェンスすることができる。西部新人では圧倒的な堅守で優勝した印象を受ける。特に、相手の攻撃の芽をつぶしてオフェンスに持ち込みリズムを掴み、試合終盤になっても脚力は持続されプレッシャーを与え続ける。選手個々に焦点を当てると、比較的**工藤楓**がセンターポジションらしい働きをするが、リバウンドなどは基本的に全員で泥臭くもぎ取りに行く姿勢が見られる。今年は1年次から2学年上の先輩に交じってレギュラーを任された**末永蒼**と**西垣玲央**のダブルエースが満を持して先頭に立ちチームを牽引する。末永は中学時代の輝かしいキャリアの名に違わないハイスペックな能力を発揮、毎回見せる相手エースとのマッチアップは試合のハイライトとなる。西垣はキャリアを重ねた司令塔、1年次は巧みなパスワークが目についたが最近では自分で得点に絡むことも多く、西部決勝ではチーム最多の21点を稼いだ。その他にも、国体予備選手の経験も持ちウインター県予選・飛龍戦でも堂々のスタメン出場を果たし冷静にフリースローを決めた**藤井惺楽**、同じく飛龍戦で先制点を決めた**宮澤政人**、その飛龍戦で3P4本を決めて県武道館からどよめきが上がった**佐藤瑞樹**、そして**伊藤太良**などはドライブからの1on1が強いが、そこに至るまでに他の選手が道筋を作ってフィニッシャーを任せている部分も強さの秘訣だと感じる。まずはブロック決勝を制して3年連続の決勝リーグ進出を決め、さらには東海新人出場、そして9年ぶりの優勝を目指す。今年4月から校名を「浜松学院興誠」と改めるため、現校名で1試合でも多く試合を重ねたい。

昨年6位の**静岡学園**は県総体・ウインター県予選ともに県8強を賭けた戦いで浜松商業に敗れ、ベスト16に終わった。背水の陣で臨んだ中部新人・3年連続同一カードとなった静岡商業との決勝戦、お互いが実力伯仲の中、最後まで1点を争う息を呑む展開となったが5点及ばず準優勝に終わった。この勝敗が今大会の組み合わせに如実に表われて苦しい戦いが続くが、相手の特徴を捉えながら攻守の組み立てをイメージしコートで体現する考えるバスケットで勝利を重ね、5年ぶりの東海新人出場に向けて勇往邁進する。昨年来下級生を中心とした起用が目立ち、新チームも指揮官から丁寧な指導と貴重な経験を与えられた面々が揃う。中心となるのは恵まれた体格を生かした柔軟性あふれるしなやかなプレーを随所に披露し内外で得点を重ねる非凡なスコアラー・188cm**内山直陽**。私はこの選手を非常に高く評価する。専門分野であるインサイドの攻防はもちろん、ショートコーナーや外からでもチームコンセプトに基づいた献身的なプレーが出来るのが特徴、静岡商業戦でも外・中・ゴール下など至る所から得点を生み出し3P2本を含む24点を叩き出した。フリースローの精度も高く、サークル内できちんと時間を使って呼吸を整えてから視線をリングに合わせて落ち着いて決めるルーティンにも注目して欲しい。敢えて助言させて頂けば、外からのこだわりを極度に強く持たずにインサイドに切れ込みターゲットハン

ドを真上に出して味方のパスを呼び込むプレーも選択肢の 1 つに考えられればもうワンランク上の選手に成長するポテンシャルを持っている。静岡県少年男子主将として佐賀国スポ3位入賞に大きく貢献した**大長真士**は昨年度の国体から県選抜選手としてトップレベルの実践を積んだことで心身ともに一皮剥けた印象がある。ボール運びも一歩先を見据えた視点で次のプレーを呼び込む達人、アグレッシブに切れ込むドライブも秀逸である。その他にも、体調不良に苦しみながらも完全復調、静岡商業戦でもオフボールの際にスクリーンやトラップを仕掛けるなど数字に表れない貢献度が見る者を喜ばせる**小長井優磨**、190cmの長身を生かした力強いインサイドプレーでコール下の防波堤と化す**小野田礼輝**、人がうらやむほどの長い脚を利用してビッグストライドでレイアップに持ち込む**五條漱士**、静岡商業戦途中出場して3Pを2本ずつ決めた**山本晴輝**・**中澤和雄**、同じく途中出場して絶妙なアシストや飛び込みのリバウンドを見せた**三宅航**・**石井蓮音**など地区覇者に遜色ないタレント揃いの布陣でまずは浜松西に競り勝ち、ブロック決勝で西部王者に挑みたい。

浜松西は近年安定した成績を堅持する県内公立高校を代表するチーム、一昨年の県新人以来県8強を逃していない。ウインター県予選も新チームの布陣で県武道館に進出し、藤枝明誠に善戦して全国レベルを肌で感じたことは大きい。西部新人で浜松開誠館に敗れたが3位決定戦では積み重ねられた経験の差を示す試合となり、まさに盤石のチームとなった印象を受ける。バスケット関連の洋書を精読し、使える戦術は率先して自チーム流にアレンジし実践する研究熱心な**本間光一**監督のもと、ハードなディフェンスと初動を意識した速攻を徹底したバスケが特徴、全体的に体幹がよく鍛えられており、身長以上に「身体が大きい」という印象を多くの選手から受ける。エースとしてチームを牽引するのは**尾藤遙陽**。大怪我に苦しみ昨夏から戦列復帰、ミニバス時代から代名詞である鋭いドライブだけでなく、驚異的なジャンプ力をいかしたシュートやリバウンドも冴える。**山田悠睦**はハイレベルなリバウンド力を武器とし浜松湖南戦でもチーム最多の26得点、懸念されていたスタミナ面も不断の努力で克服、40分間縦横無尽にコートを動く。**関宮怜央**は尾藤を欠く戦いを強いられた県総体での活躍が印象的、長身を生かした力強いゴール下のプレーでセカンドチャンスやブレイクの起点となる。以上3人共180cmオーバーの長身選手、高さは県内トップレベルである。その他にもオフENSEの引き出しが多彩、ファウルレシーブの技術にも長けて時にはロングシュートも放つ**福澤生也**、1年生に目を移すと力強いドライブと果敢に攻めるカッティングが魅力の**坂本陽樹**、そしてウインター県予選で覚醒、天下の藤枝明誠から3P4本を奪ったスコアラーの司令塔の**辻本直矢**など、チーム全員がその強靱なフィジカルでインサイドプレーもこなし、ただゴール下へアタックするだけではなくフリーになった瞬間にミドルを打つシュートセレクションの良さも強み。2回戦で予想される最注目的好カード、静岡学園戦を乗り切り西部王者・浜松学院も撃破して、一気に12年ぶりの東海新人出場を決めたい。

浜松商業は県新人・県総体に続きウインター県予選でも8強を賭けて静岡学園と3度目の対戦、1勝1敗で迎えた決着戦は記憶に残る壮絶な戦いを3点差で制し4年ぶりに聖地に辿り着いた。絶対的エースの宮本剛都や3Pシューター臼井力兜が引退し、さらにウインターを上級生主体で臨んだ関係で新チームの立ち上げがやや遅れた感はあるが、県新人までには完成された状態に仕上げてくるだろう。西部予選を見る限り、ドライブ・3P・ポストプレーなどバランスの取れたオフENSEを無難に繰り出し相手ディフェンスのわずかな隙を見逃さず、さまざまな戦術で得点を重ねていた。その中でも、怪我から完全復調し新エースと目される**小島颯也**の空中で相手をかかわす卓越した技術、182cm**中山雄陽**の長身から器用に出されるドライブ力、筋肉隆々のたくましい肉体を築き上げた**千葉勢太**のパワフルなプレー、1年生・**和田悠心**が静岡学園戦で上級生にまじ

って見せた遜色ないハイクオリティーなバスケなどは十分に上位進出を狙える戦力、早々に 2 回戦で予想される浜松学院との伝統の一戦は目の離せない戦いになる予感が漂う。

8 年ぶりの出場となる**富士**は予選 9 試合で 7 勝を挙げて大会最多勝利、東部 9 位で県新人に臨む。優勝チーム同様今年に入って負けなし 3 連勝、勝ち続けることで精神的余裕が生まれ、プレーに自信が出るのが大きい。普段は監督やコーチの助言を参考に選手主体で練習メニューを組み立てて、指導者と意見交換したうえで練習に臨むチームポリシー、試合では粘り強いディフェンスとボックスアウトを徹底しブレイクでの得点を狙い、ピック&ロールやオフボールスクリーンを多用するなかで得点につなげていくプレースタイル、ノーミドル、ローテーションディフェンスを徹底し、相手にイージーシュートを打たせないチームディフェンスも心掛ける。巧みなハンドリングとステップを見せるチーム随一のスコアラー・東部新人でも各校指導者から称賛の声が上がった**大塚友貴**、粘り強いディフェンスが特徴・広いシュートレンジを持つ**篠原歩樹**、確率の高い 3P を放ちチームの流れを変える**鈴木賢剛**、高いジャンプ力を活かしたリバウンドとセンタープレーが特徴の**光森煌介**などを中心に新人戦「8 勝目」を目指す。

その他注目選手として、**市川将翔**・**南條蒼生**・**細川生童**・**齋藤天馬**・**ヴィリヤジャンハツ**・**ビエンシャン**(静岡大成)、**辻村未来**・**内山皓心**・**山下晴輝**・**久野綾大**・**平塚大輝**(浜松商業)、**武田倫太郎**・**金子晴人**・**花井飛雄**(浜松西)、**竹内銀河**・**松原陸**・**工藤大輔**・**佐野空良**・**笠井惺勇琉**(星陵)、**高木琉太郎**(富士)、**濱津俊太**・**勝亦瑛太**・**奥本悠太**・**柏木勇志**・**加藤泰史**(伊豆中央)、**鈴木麻也**(静岡学園)などを挙げたい。

【女子】

今大会も現在県内大会 24 連覇、161 連勝中、まさに 9 年近く県内無敵を誇る浜松開誠館の総合力が断然群を抜いている。そのような状況の中でも各地区予選王者と上位チームが何とか女王に一泡吹かそうと必死に追いつがる展開が予想される。そして 2 番手以降はまさに「群雄割拠」、これは男子にも言えることだが、東海新人出場権争いも例年にも増して熾烈な争いとなる。

左上のブロックは今年も浜松開誠館の独壇場であろう。他チームはまず浜松開誠館と戦うところまで勝ち上がり、試合の中で絶対女王を慌てさせ、何か次につながるものを掴み取りたいと思って戦うことになる。その中で、静岡東と沼津中央の地区 3 位同士のチームがブロック決勝での浜松開誠館挑戦権を賭けてぶつかり合う展開になると予想する。

大会 8 連覇を狙う**浜松開誠館**はウインターで近江兄弟社(滋賀)、そして本県が過去に何度か苦杯を喫した千葉英和にも快勝、戦前から大きな山場と予想された 3 回戦、インハイ 3 位・精華女子(福岡)戦では相手留学生の爆発的攻撃力に苦しみ終始追いかける展開となり終盤の反撃も一歩及ばず惜敗、しかしながらインハイに続き堂々の全国ベスト 16 となったことは私たちにとっても誇りである。主力としてチームを牽引し続けたダブルエースの井口・後藤やチームを下支えした八重柏憂奈・杉山実子などは引退したが、実戦経験を多く積んだ下級生が先輩たちの魂を受け継ぎ、チームをリビルドして今大会に臨む。

中心となるのはウインターの檜舞台 3 試合で 3P5 本を含む 33 得点を挙げ、次世代のエースとしての貫禄を十分見せた**前川桃花**。中学 3 年時に全中優勝・Jr. ウインター 3 位という輝かしい

実績を誇り、高確率の 3P と緩急あるプレースタイルが特徴の逸材、ピンチの際も冷静に現状を把握しながらプレー、常にリスクマネジメントも出来ていてミスも少なく安定感あるプレーヤーと言える。高校入学後も浜松開誠館躍進への貢献はもちろん、昨年の国スポにおける少年女子 3 位入賞の立役者となり、2 年連続で県協会優秀選手に選ばれるなど今大会ナンバーワンの注目選手、特に国スポでは今回から新設された個人表彰制度による初代「スリーポイント王賞」を受賞、優勝した京都相手に 7 本の 3P を決める大車輪の活躍が評価された。得点を量産できるポテンシャルがあるため攻撃ばかりに目が行きがちがちだが、守備面での貢献度も計り知れない。決して大柄とは言えない 161cm、しかしながらコートの上ではその体格差を感じさせないディフェンスを見せる。相手へ密着する執拗な寄りを見せ、そのプレッシャーに耐えきれないボールマンのターンオーバーを誘発し、時には果敢にスティールを仕掛けワンマン速攻に持ち込む。ウインター3 試合で 9 スティールという数字が彼女の卓越した守備力を物語っている。今相手が一番どんなプレーを嫌がっているかを瞬時に分析しながらプレーとして体現できる新たなスターの一挙手一投足に注目して欲しい。前川とともに新チームを支えるのは**小幡美空**。県内最高身長 177cm の長身を生かしたリバウンドプレーが魅力、ウインター2 試合でスタメンの大役を与えられるなど指揮官からの信頼も厚い。力強いリバウンドからセカンドチャンスでのゴール下のシュートを得意とし、ディフェンスがブロックに来てそれを押し切って決めるバスケットカウントは圧巻である。1 年生・**垣内優希奈**は昨年までは八重柏との併用が続いていたが今年からは主力としてチームに貢献する。緩急のメリハリが効いたプレーと積極的に放つ高確率の 3P が持ち味、きちんと鍛錬された守備力にも定評がある。その他にも、前川とともに県選抜選手に選ばれ鋭いドライブや 3P で国スポ 3 位入賞に多大なる貢献をした**鈴木結愛**、国スポ・福井県戦で 2 点ビハインド残り 13.2 秒で鮮やかな弧を描く値千金の 3P を決め 3 位入賞への道筋を作ったプレーが忘れられない**牧田千紘**、国スポ選手にも選ばれウインターにも出場しスピードを生かしたプレーで得点を挙げた**小林陽菜乃**、高いポテンシャルを生かしたダイナミックなプレーでウインター初得点を挙げた**織田百々花**、絶妙のアシストやドライブを得意とする**坪田桜子**、貴重なユーティリティー・**鈴木千夏**、ウインター2 試合に出場した**持田莉子**・**山本爽未**、広いシュートレンジから多彩なシュートを打つ**佐々木涼渚**、気持ちで負けないガード**片岡美紗**など全国トップに肉薄する厚い戦力、東海・全国を見据えながらも決して油断・慢心せずひたむきに目の前の勝利にこだわり徹底したディフェンスをさらに強化しながら人とボールが常に動く理想的な攻撃スタイルをさらに強固なものにしている絶対王者に今回も死角は見当たらない。まずは確実に県制覇を達成し、桜花学園・岐阜女子を倒して初の東海制覇を成し遂げて欲しい。

その絶対王者に初戦から果敢に挑む**掛川東**は平成 31 年の県新人以来 6 年ぶり、令和初の出場となる。しばらく低迷した時期があったが、指導者の熱意と選手の気持ちが一つになり、チームディフェンスを徹底してリズムよくオフェンスにつなげるバスケットスタイルで県大会を勝ち取った。限られた人数、そして実績のある選手も多くない中で、全員で一つの勝目標に向かって取り組んできた成果と言える。**早川幸来**はキャプテンとしてチームを引っ張る 3P シューター、**大平陽菜乃**はポイントガードとしてチーム戦術の中心選手、最も得点力が高く頼れる存在でもある。1 年生に目を移すと**今井和花**は攻守の起点としてすでにチームに欠かせない存在となっている。非常に厳しい組み合わせではあるが、右膝前十字靭帯断裂の断裂の大怪我を負いながらも総体予選での復帰に向けて日々リハビリに取り組む**櫻井瑚々**のためにも全力を尽くして次につながる戦いを見せて欲しい。

静岡東は県内有数の選手数を抱え能力が非常に高い選手が揃う。中部予選でも厚い選手層を武

器にめまぐるしくメンバーチェンジを繰り返し、出てくる選手すべてが監督の戦術をきちんと理解してコートできちんと体現、機能的ディフェンスとリズムカルに決まるアウトサイドで3位を勝ち取った。機動力と得点力に秀でるエース・**廣田美優**を中心に昨年度のウインター県予選以来の県8強を決めて絶対王者に挑みたい。

過去2度の優勝実績を誇る**沼津中央**は沼津商業との3位決定戦に快勝し8年ぶりの健8強が射程圏内に入る位置で大会に臨む。7人という参加チーム最少人数ではあるが個々の能力は抜群である。スピードとテクニック満載の**浅田海**を始め、スタメンの**依田愛巳・江川凧・金子未杏・五十嵐小梅**、どこからでも誰からでも均等に得点を積み重ねて勝利を掴み取るスタイル、スピードあるドリブルワークは一見に値する。両雄の戦いは最後まで息をのむ戦いになることは間違いない。

その他注目選手として、**渡邊夏帆・伊藤葵・池田雛希・村上花歩・杉山莉彩**(静岡東), **錦戸あきら・三次咲妃**(掛川東), **小川心優・稲葉友奏・望月優那・大出柚葉・植阪晴愛**(静岡女子), **大月耶奈実・宮住美桃・清水咲希・石田妃菜野・小池果寿**(藤枝順心), **今西莉子・内山留瑠・関根美緒・菊岡南那・鈴木萌花**(浜松市立), **藤倉琴音・田村悠香・鬼頭菜津・石井優杏・野口華音**(加藤学園), **岩田楓・春川姫香**(沼津中央)などを挙げたい。

左下のブロックは前回大会5位、そしてウインター県予選準優勝の西部新人覇者・浜松南の実力が他を大きく引き離している。それを懸命に中部新人準優勝の常葉大常葉とウインター県予選3位の沼津商業、そして昨年の県新人・県総体7位の浜松聖星が追いかける展開になる。

浜松南はコロナ禍後の3年間で安定した順位を保ちながら一步步前進し順位を上げ、公立高校にとどまらず今や県内を代表する強豪校となり、今回も浜松開誠館の対抗馬一番手である。昨年この大会5位、県総体で6位に順位を落とした悔しさをバネにウインター県予選では東海総体に出場した東海大翔洋を一蹴、準決勝では一時14点差をつけられ最終Q残り5分を切ってもまだ2桁得点のビハインドに苦しむ中、インテンシブなディフェンスとブレイクを駆使した猛攻で見事逆転、39年ぶりの決勝進出を果たした。大黒柱・山村梨心が引退し完全新チームで臨んだ西部新人でも浜松商業を寄せ付けず見事初優勝、今大会は初の東海新人出場、そして最終的にはウインター県予選決勝で屈した浜松開誠館を倒すことを目標にしているはずである。中心となるのは、試合後半で神がかり的なシュートを立て続けに決めて市立沼津戦初勝利の立役者・県協会優秀選手にも選出された**萩原静音**。154cmという小兵プレーヤーながら、相手ディフェンスに囲まれる苦しい体勢からわずかなパスコースを見つけるボールつなぎやハイスピードの突破力、そして確かな技術に裏打ちされたテクニックによって繰り出される美技の数々がまさに新エースの真骨頂といえる。当然各チームのマークは予想以上に厳しくなるが、それをある意味自分への試練と解釈し、次なる一手を考えながらさらに成長して欲しい選手である。県選抜に選ばれ国スポでも全国3位に貢献した**相澤彩乃**は172cmの長身を生かしたパワープレーと磨き鍛えられたテクニックに裏打ちされた器用なプレーを併せ持つ選手、浜松開誠館戦ではチーム全体が全国トップレベルの鉄壁ディフェンスに攻めあぐむ中、わずかな突破口を見つけて挙げた3P2本を含む値千金の12得点は何よりも価値あるものだと評価したい。今年度1年生として唯一県協会優秀選手に選ばれたことも大いにうなずける。**鷹野瑠美**は鋭角のドライブや度胸満点の3P、気迫こもったディフェンスを称賛するのは当然だが、何といてもプレーへのスタートダッシュが素晴らしい。ウインター県予選では控えからの出場だったが、コートインしてから試合への適応能力の

速さにフロアレベルで見ていた私も目を見開いた。スタメンが続く西部新人でも同様、相手の機先を制するプレーを序盤から見せた。昨年の国体選手・**新林芽依**はボールコントロールが上手く基本に忠実なプレーを続ける。チームを束ねる**藤田結依花**は気持ちで負けない強いキャプテンシーを持ち、日々の練習がそのまま試合のコートに表れることを強く信じる頼もしい主将の鏡、まさに a model of the captain と言える。プレーでは球際への執念や途中出場時のハードワークなどでもチームに貢献する。スーパールーキー・**金子莉央**はU15時代での多くの活躍を耳にし、県武道館で初めて実際にプレーを見たが噂に違わぬ洗練されたプレーの連続に度肝を抜かれたことを思い出す。西部決勝でも途中出場して16得点、この選手がスタメンでなく切り札としてベンチに控えているだけで相手にとって脅威の的、ここに浜松南の強さの秘訣がある。その他、市立沼津戦・浜松商業戦でもスタメン出場を果たした**若林鈴音**、国スポ予備選手にも選ばれた**金森柚妃**、県武道館メインコートで2試合とも踏んだかけがえのない経験を次につなげる1年生コンビ**鈴木瑚々**・**鈴木華蓮**など近年の県立高校では類を見ない厚い戦力を誇る。そして一步一步順位を上げ続け就任5年目にして県頂点まであと1勝にまで迫った若き知将・**杉本貴央**監督の采配にも注目したい。まずは県総体で接戦の末敗れた沼津商業に勝利を収め、常葉大常葉との対戦が予想されるブロック決勝も乗り切って確実にベスト4へ、その先東海新人初出場はもちろん、浜松開誠館との再戦でウインターの雪辱を果たし、初優勝を目指す。

常葉大常葉は中部新人決勝で2年連続東海大翔洋に敗れたものの内容的には互角以上の戦いを見せて、まずは佐野恵子監督就任以来初の県8強に入り、最終的には6年ぶりの東海新人出場を目指す。中部決勝では一進一退の攻防が続く中で見せた粘り強いディフェンスとリバウンド支配を見せ、県新人への光明となった。特に選手全員に浸透したリバウンドへの執念は凄まじく鬼気迫るものがあつた。3Pを得意としフックシュートや綺麗な弧を描くシュートも見せる**池田愛央衣**、県内最高身長177cm・恵まれた体格と鍛えられたタフネスでことごとく相手のシュートをブロック、アップスクリーンも絶妙な**河島唯奈**、攻撃ではミドル、守備ではハンドチェックからのスティールが持ち味の**佐野麻帆**、司令塔としてとにかくコートを駆け回り、ターンシュートではピボットフットの使い方が絶妙でディフェンスを交わして見事なアーチを描くシュートにつなげる**堀田明里**、巧みなハンドリングに付随して動きの範囲が広く、リバウンド時に「ここに居たのか」と思わせるベストポジションでボールを支配する**鈴木愛々**などの面々で、流動的にポジションを変えながら練習で培ったコンビネーションでテンポの良いバスケットを仕掛けて得意のロースコアゲームに持ち込んで、まずは浜松聖星との対戦が予想される2回戦を突破し、県総体で敗れた浜松南とブロック決勝で対戦したい。

ウインター県予選3位の**沼津商業**は新チームの始動が遅れて今回は東部4位に甘んじたが、昨年度・今年度の全大会でベスト8を逃しておらず、今大会でもベスト8以上堅持が目標となる。庄司奈納・向井京など3年生は抜けたが、その上級生に混じって出場したウインター県予選・浜松学院戦でここぞという場面で決定的なシュートを立て続けに決めて12得点を挙げメインコート進出の立役者となった**三浦咲**を中心に、飛び道具の3Pが入りだしたら止まらない**今坂怜愛**、東部新人3位決定戦でチーム最多タイの19得点を決めた**伏見優来**など偉大な先輩の後姿を見て学び続けた後輩たちが「高さと走力を生かした一丸バスケット」を継承していくはずだ。

安定した成績を続けていた**浜松聖星**はウインター県予選3回戦で静岡商業にまさかの敗戦、1勝も出来ずにコートを後にする屈辱を味わった。雪辱を期す今大会、外角から切れ込む対人の強さが魅力・中部新人浜松学院戦でもチーム最多の15得点を挙げたスコアラー・**長谷川万桜**を筆

頭に、長距離砲が冴え渡る**深間菜月**、テクニック満載の技巧派選手・**中西杏奈**、そしてミドルシュートに境地を見出す**森美希奈**など十分に県上位を狙える戦力、持ち前のボールと人がテンポよく連動する攻撃的バスケットを機能させれば、11年ぶりの東海新人出場も決して夢ではない。

その他注目選手として、**河谷唯**・**芹澤もか**・**今井琴梨**・**廣末菜央**・**堀米紗桜**(桐陽)、**森上美波**・**石野海月**・**近藤莉愛**・**谷口陽愛**(浜松東)、**高根夢**・**芹澤芙実香**・**芹沢天音**・**長澤鈴**・**杉山未来**(御殿場南)、**大畑こま**・**望月葵衣**・**須山心穂**・**塩坂彩菜**・**栗田恋羽**(静岡大成)、**渡邊紅玲羽**・**鈴木優実榎**(沼津商業)、**鈴木美虹**・**富永悠香**(浜松聖星)などを挙げたい。

右上のブロックは2年連続準優勝の市立沼津を、前回大会6位・県総体・ウインター県予選ともに8強入りして安定した実力が目を引く浜松商業と同じくウインター県予選ベスト8の静岡商業が追う展開になるだろう。

昨年県新人・県総体準優勝の**市立沼津**は東部新人決勝で三島南に危なげなく勝利、東部新人11連覇を飾った。13年ぶりの優勝を狙ったウインター県予選では浜松南に残り1分から逆転負けを喫し3位に甘んじた。その悔しさと無念さをバネに今大会は万難を排して3年連続の東海新人出場、そして絶対女王を倒して16年ぶりの優勝を狙う。チームを支えてきた河谷真矢・勝亦麻結は引退したが、主力として活躍してきた下級生が最上級生となり、新入生の底上げも出来ていて戦力的には例年と遜色なく、浜松南とともに浜松開誠館の対抗馬であることは間違いない。

新たなるエースを任されるのは入学時からチームへの貢献はもちろん、国体・国スポなど静岡県への貢献度も高く、県協会優秀選手にも選ばれた**野田志**。東海リーグでもそのひたむきな姿勢が特集記事として配信されたこともある県を代表するユーティリティー、すべてのスキルがハイレベル、身長170cmで高さも兼ね備え、流れを自陣に引き寄せ、神がかり的なプレーを見せたことも1度や2度ではない。東部決勝でも盤石のプレーで3P2本を含む41得点、まるで読心術を使って相手との駆け引きを楽しむかのように放たれるシュートにも注目が集まる「今大会で絶対に見るべき選手」である。**米内心菜**は実戦経験の場を与えれば与えるほど成長し結果を残す選手、国スポにも出場し主力級の活躍も見せた。成長するたびにいい意味で喜怒哀楽が表情に出ようになり、キャプテン自らの気迫溢れるプレーはチームの勢いに相乗効果ももたらす。ゴール下での連係や相手のブラインドで見せる美技も百聞は一見に如かず、是非会場で直接見て欲しい。

上原美桜も国スポ選手に選ばれて自信をつけた選手、173cmの長身を生かしたリバウンドと緊迫した場面でも決め切る正確なフリースローに定評がある。**岩田真奈**は入学当初から主戦として重用され、随所に頭脳明晰なプレーを見せて関係者を驚かせた。もちろん国スポにも選抜された県を代表する次世代のエース、攻撃のバリエーションも多彩、決勝でも3P4本を決める大活躍、プレーの引き出しが多いため捉えどころが難しく、相手も対策に苦慮するだろう。新チームになってレギュラーをつかんだ**梅原萌々伽**はプレッシャーディフェンスから流れをつかみリズムよくオフェンスにつなげるタイプの選手である。その他にも、国スポ予備選手にも選ばれたドライブシュートの達人・**岩川恵里花**、県武道館のメインコートに立ちキックアウトからの3Pを決めた**大波美結**、合わせから3Pに活路を見出す**朝比奈詩**、ボールマンへのディフェンスに自信を持つ**飯田琉永**、フリースローの精度が高い**堀川環菜**、3Pシューター・**奥田倭未**など確かな経験に裏打ちされた技術とテクニックを持つレベルの高い選手が多く集まった。高さを生かした粘りあるリバウンドと激しく詰め寄るプレッシャーディフェンスで試合の流れを引き寄せ、得意のカッティングから攻撃のリズムを作って最後まで機動力を落とすことなくハードに走り続ける妥協を許さない徹底したバスケットでまずは浜松商業との対戦が予想されるブロック決勝を制し決

勝リーグに進出、県総体・東海リーグで敗れた浜松開誠館とウインターで敗れた浜松南への雪辱を誓う。

西部新人決勝で浜松南に惜しくも敗れたが地区予選最高順位で今大会に臨む西部2位・**浜松商業**は鍛え抜かれた強靱な足腰を使ったブレイク主体のスピードバスケットを展開する。ラン&ガン・ファイブアウトなど多種多様なオフェンスも魅力のチームである。ウインター県予選直前で後輩そして自身のために電撃復帰を決意した山田千恵は引退したが、新チームの始動が早かったためにどの選手も経験を上積みしていることが強み、中心となるのは**大場優菜**。平均してチームの総得点の4割はこの選手が取るのではと思えるスコアラー、身を挺したゴール下のリバウンドやスピードあふれるランプレーや飛び道具の3Pが魅力、力強さと躍動感を兼ね備える大黒柱である。新チームとなり成長著しいのが**原田りの**。得点感覚に優れ、鋭いドライブや脚力を使ってのレイアップを随所に放つ。この二人を中心に、玄人はだしのパスワークや優れた瞬発力でチームを支える**谷野有彩**、プレーに安定感があり試合中も常に安心して見守れる指揮官からの信頼も厚い**伊藤優月**、自身を犠牲にしてもゴール下を守る献身的ディフェンスが取り柄の**森下恋**、ウインター県予選でも活躍・軽快なステップで相手を抜き去るドリブルワークやスピードを生かしたプレーが光る期待の星・**玉川冴**、控えの切り札としてチームが修羅場の状況で起用されてもきちんと期待に見合ったプレーができる**杉山希愛来**・**荒川結月**などの成長を見ると、実戦経験を積み重ねて力を付けてきたと改めて実感する。順調に勝ち上がればブロック決勝で昨年敗れた市立沼津との再戦が予想される。最後まで接戦の展開に持ち込み、勝機を見極めた瞬間に一気に逆転劇に持ち込む「**浜商劇場**」を見せて、初の県4強そして東海新人出場をも目指す。

静岡商業はノーシードで挑んだウインター県予選で浜松聖星・静岡大成のシード校を連破し9年ぶりの県武道館出場を勝ち取った。インサイドを起点にしながら速い展開を仕掛けるスタイルが基本、外回りには**提坂みそら**・**本間瑠夏**、中にはツインタワー・176cm **長谷川海尋**・175cm **小杉凜**を擁する布陣でまずは県総体初戦で敗れた浜松日体にリベンジし、浜松商業とブロック決勝を賭けた戦いを制し、ウインターに続く県8強を目指す。

その他注目選手として、**勝又慶**・**佐々優華**・**元野日菜**・**坪内杏香里**(静岡)、**稲垣茉瑚**・**落合美雨**・**提坂みそら**・**本間瑠夏**・**清水柚菜**(静岡商業)、**五味優花**・**西村佳菜**・**波多藍郁**・**池谷璃子**・**久保田未瑠**(浜松日体)、**遠藤優日**・**嶋田彩希**・**吉田光花**・**高屋敷里帆**・**菊池萌衣**(三島北)、**秋山心**・**池田あおい**・**田形はる**・**根緒美来乃**・**鈴木琴鞠**(日大三島) **鈴木楓花**・**川上奈子**・**佐藤あや香**・**増井日南子**・**樋口凜優**(磐田北)などを挙げたい。

右下のブロックは中部新人を連覇し悲願の東海新人初出場を目指す東海大静岡翔洋の総合力が際立つが、地区予選初の決勝進出を果たして東部2位で大会に臨む三島南と前回東海大翔洋との決定戦を制し県3位で2度目の東海新人出場を果たした浜松学院が2回戦で対戦予定、勝者が翔洋と決勝リーグ進出を賭けて戦う構図が予想される。また、大会のたびに順位を上げて今回最高順位となる西部5位で挑む**浜松湖東**の戦いにも注目が集まる。

東海大静岡翔洋は県総体3位で7年ぶりに東海総体に出場したが、ウインター県予選準々決勝で浜松南に敗れ初のメインコートを逃した。3年生で唯一秋まで残りチームに貢献した一見陽菜は抜けたものの、残りのスタメンは変わらない顔ぶれ、最後の最後まで競った中部新人決勝・常葉大常葉戦でもドライブとインサイドを中心に勝負所で得点を逃さない徹底した攻めの姿勢

で勝ち切った。

チームを引っ張るのは県協会優秀選手・177cm **稲葉叶**。御覧の通り、惚れ惚れするような立派な体格、長い手足や広い肩幅を生かしたダイナミックなプレーが魅力、スピードや緻密さも持ち合わせる大器、顔一つ動かさず素早く的確に出されるノールックパスを見るたびに、今すぐに大学や実業団に行っても通用するのでは、と思うのは私だけだろうか。その中でもゴール下でのポジショニングやスペース取りに優れ、リバウンドを含めたパワープレーにつなげる今大会注目の選手である。**星合汐風**はゲームの組み立てがうまい司令塔、腕の伸縮を利用した力強いロングパスや高い位置でのリバウンドを武器とする一方、勝負所で果敢に放つ度胸満点のシュートは逸品で、常葉戦でも最終盤2度に渡って決めた相手の猛追をかわす決定打に観客は感嘆のため息を漏らすばかりであった。対面への合わせに出すパスの速さと正確さにも注目して欲しい選手である。172cm **山内楓**は稲葉とともにチームの空中権を守るオールラウンダー、攻撃では仲間のボール回しの際にスペースウォッチングをしてフリースペースに切れ込み合わせをもらってのジャンパー、守備ではボールマンが辿るドライブコースを察知しての位置取りが迅速、相手がチャージングを恐れるあまりにスピードを緩めたところで攻め手を奪う。その星合の合わせの相手が**森理桃子**。どちらがパッサー・キャッチャーではなくそこは阿吽の呼吸、決勝では星合のフローター気味のアウトレットパスをうまく上手に3Pに結び付ける美技を見せた。双子の妹・**森理彩子**も攻守において泥臭いプレーを見せ、飛び込みのリバウンドから先陣として走り込む選手にショットガンパスを出す。その他にもハッスルプレーと脚を相手に寄せたディフェンスが持ち味の**青島由來**、時折見せる華麗なバックシュートとしつこいディフェンスが強みの**北川伶奈**など選手たちも切磋琢磨しながら互いを高め合い最後には仲間をリスペクトして目標に勇往邁進するバスケットでまずは2年連続で決勝リーグに進み、前回最後の最後に手中からこぼれ落ちた東海新人切符獲得に全力を尽くす。

県上位常連の**三島南**は昨年10月のウインター県予選・県武道館進出を賭けて戦い敗れた沼津商業と東部新人準決勝で再戦、県3位そして東部新人第1シードの難敵を破る快挙を成し遂げ初の決勝進出、市立沼津には敗れたものの見ごたえのある決勝戦を演じた。辻村明日花という3年間チームを支えた押しも押されもせぬ大黒柱は抜けたが、切り替えの速いトランジションからの速攻を主体としたチームで安定した試合を展開、選手層が厚いメリットを利してめまぐるしく交代を繰り返して個々の特徴を出し切るのも特徴、中心となるのはやはり2年生である。リバウンド・ルーズボールなど球際を追うことに汗をかく**伊澤せり**、フィールザゲームを意識しながら適切な状況判断ができる**山中和奏**、チームに170cmオーバーの選手がいないためスモールラインナップに頼らざるを得ない中で指揮官に辛抱強く起用され続け粘り強いゴール下の攻防が出来るようになった166cm **中川結衣**、そして辻村の後継者として白羽の矢が立ち持ち前のスピードで相手ディフェンスを翻弄する新エース・**渡邊結衣**など層の厚さが目をひく戦力を誇る。まずは2回戦で予想される難敵・浜松学院との対戦を制し16年ぶりのベスト8以上を確定させ、ブロック決勝で東海大翔洋と戦いたい。

その三島南が初戦で対戦する**駿河総合**は中部9位で3年ぶりの県新人出場を決めた。鋭いドライブや果敢なカットインで突破口を見出す**岩田蒼未**を中心に、攻撃では巧みなステップシュート・守備では長いリーチを利してリバウンドやスティール・チームへの貢献度は計り知れない**天野なつき**、誰よりもインテンシブにリバウンド争いに挑みゴール下の押し合いにも負けないインサイドワークが見られるようになった**小澤彩葉**、そして9位決定・静岡戦で最終盤相手の猛攻に遭い苦しむなかで起死回生の3Pを3本連続決めて相手の戦意を奪い取り「勝利の女神」となっ

た岸山愛海などの戦力で、地区予選6勝の勢いを保ったまま3年ぶりの県新人勝利を目指す。

昨年東海新人に出場した**浜松学院**は、その後の東海総体と県武道館のメインコートを目前にしながら惜しくも逃してしまった。特にウインター県予選では準々決勝で沼津商業の気迫に押され競り負けて涙を流した。しかし安定感は県下トップレベル、実際に平成29年度県新人以来高校大会では19回連続県8強を保ち続けている。これは浜松開誠館に続く長さ、いかに大崩れしないバスケがチームに浸透しているかがわかる数字である。今回は主力選手がガラッと入れ替わり新陳代謝が一気に進み、新進気鋭のメンバーで2年連続の東海新人を目指す。昨年の足立珊瑚・ワネケジジュリエットのようなタレントが揃うわけではないが、足立からエースの称号を受け継ぎ、まるでボールが手のひらに吸い付くかのような名人芸のハンドリングや跳躍力を生かした高い地点でのリバウンドキャッチで観客を沸かす170cm **太田綾夢**、新キャプテンに就任しフォーザチームの精神のもと身を粉にした献身的なプレーに一意専心、特にディフェンスでは執拗なディナイを仕掛け相手の出鼻を挫く守備を心掛ける**高柳亜知葉**、メインコートを賭けた「関ヶ原の戦い」沼津商業戦では相手の反撃に遭った後半戦で内外から孤軍奮闘、その姿にニューヒロインの誕生を垣間見た**守山ひかり**、ミニ時代からの逸材がついに開花、西部新人・浜松聖星戦では3P5本を決める無双ぶりを見せ大器が晩成した**田開瑚生**、171cm・チーム一の長身を利したリバウンドとポストプレーで浜松学院伝統の高さを生かしたバスケのDNAを受け継ぐ**荒井香実**、新チームでレギュラーに抜擢され得点に必ず絡む天性の感覚を披露した**市川水琴**、国スポにも出場した170cm **袴田千愛**など、スターに頼らず全員が地道なプレーを積み重ねて勝利に向かうバスケが今年の浜学スタイル、今回が「浜松学院」で臨む最後の大会、足掛け7年以上にわたる県8強堅持は絶対条件、そのためにもまずは上位シードの東部2位・三島南を倒して県新人・県総体と東海大会を賭けて戦い1勝1敗の東海大翔洋との決着戦に挑みたい。

富士宮西は最終日に東部のみ冠が打たれた「県新人出場決定戦(11位決定戦)」で伊豆中央に勝ち最後の1枠を得て9年ぶりの県新人出場を決めた。2年生4人・1年生7人のチーム、堅守速攻を目標に掲げ練習から走り込んできた結果が「成果」となった。司令塔として試合の状況を俯瞰したオフェンスセレクションとどんな相手にも積極的なディフェンスでチームを支える屋台骨・**梶山稀花**を中心に、夏のリーグ戦を通し3Pの確率を上げ、積極的なドライブが持ち味で相手ディフェンスが間合いを取れば3Pも放つオフェンスの要・**松井怜那**、インサイドで積極的に脚を動かし攻守にわたって献身的なプレーを見せ、球際の強さはチーム随一・**松永凜**、中も外もプレーできる万能選手としてチームの流れを変えられる**加藤愛梨**などの戦力で、中部王者・東海大翔洋と対戦する。胸を借りるという気持ちではなく、挑む・倒すという気持ちで頑張りたい。

その他注目選手として、**青野愛琉**・**見崎ひなた**・**石上七菜**・**岩堀未羽**・**青木蘭**(駿河総合)、**清水佐和**・**宮城島夢子**・**手塚希海**・**菅野陽向**・**遠藤陽菜**・**平岡希星々**(清水南)、**高橋乃愛**・**齋藤玲愛**・**大友彩歌**・**鈴木湖遥**・**日比野由麻**・**平松果歩**(浜松湖東)、**高部咲希**・**高橋侑加**(浜松学院)、**井上柑奈**(富士宮西)、**篠原由愛**・**太田寧織**・**佐藤ひなた**・**日吉希心**・**鈴木姪賀**(飛龍)、**足立結菜**・**久芳美羽**・**渡邊萌生**(三島南)などを挙げたい。